

北海道バス旅行報告書

C L 4回鈴木健悟

1. 日時；平成20(2008)年9月16日(火)～23日(火)7泊8日

2. 場所；北海道全域

3. 区分；ドライブ

4. 目的；団体行動における規律を学ぶ

夏季合宿の及び今後の合宿の情報交換

部員間の交流促進

安全、快適かつ無事故無違反での運転

5. 参加メンバー；19名(4回生5名、3回生2名、2回生11名、1回生1名)

C L 鈴木 健悟 法4 ドライバー要員

S L 羽根 優介 法4 ナビゲーター要員

班長 藤田 琢也 理4 1班 ナビゲーター要員

沼田 智哉 法4 1班

山本 修平 法4 1班

橋崎 裕幸 済3 1班

班長 山下 友輔 済3 2班

杉山 智也 済2 2班

千葉 弘貴 済2 2班

米田 裕一 営2 2班

班長 折田みゆき 法2 3班

柿原 精太 法2 3班

下田 拓未 法2 3班

湊屋 和也 法2 3班

班長 天野 賢士 理2 4班

廣谷 潤 工2 4班

石田 智視 文2 4班

岩本 唯 文2 4班

兼松 純平 済1 4班

6. 車輛

三菱ふそう ローザ 29人乗り(マイクロバス)

7. タイムスケジュール (カッコ)は当初予定

9月16日(火) 1日目

J R 京都駅烏丸口集合 18:45 (19名中16名)

J R 京都 19:21～(二条駅にて2名合流)～20:04 園部 20:17～21:08 綾部 21:17～東舞鶴 21:47 着 部員1名と合流

バス 東舞鶴駅 22:05～舞鶴港前島埠頭フェリーターミナル 22:15

フェリー 乗船開始 23:20 新日本海フェリーはまなす号

9月17日(水) 2日目

フェリー 舞鶴港発 0:45～小樽港フェリーターミナル着 20:45 下船開始 21:05 レンタカー引渡し

マイクロバス 小樽港 21:20～小樽温泉オスパ 21:25 就寝 23:45

9月18日(木) 3日目

06:00 起床 朝食は各自

06:55(07:00) 小樽温泉オスパ出発

- 114.4km 70分【98.0km/h】 -
08:05(08:15) 道央自動車道 砂川サービスエリア着
08:20(08:30) 発
- 53.6km 40分【80.4km/h】 -
08:55(09:10) 深川留萌道 深川幌糠インターチェンジ通過
- 42.1km 50分【50.5km/h】 -
09:35(10:00) 道の駅 おびら鯉番屋着
09:55(10:30) 発
- 60.3km 70分【51.6km/h】 -
11:05(11:50) 道の駅 富士見着 昼食各自
12:00(12:30) 発
- 45.4km 50分【54.4km/h】 -
12:50(13:25) サロベツ原野パーキング、北緯45°モニュメント着
13:00(13:40) 発
13:45(-----) ノシャップ岬着
14:00(-----) 発
14:15(14:40) 稚内南SS着 燃料補給 385.8km 49.81 燃費7.74km/
14:20(15:10) 発
- 28.4km 25分【68.1km/h】 -
14:45(15:45) 宗谷岬着
15:35(16:15) 発
- 28.6km 30分【57.2km/h】 -
16:05(16:50) 笠井旅館着 444.4km 走行
18:00 夕食

9月19日(金) 4日目

07:00 朝食
08:05(08:00) 笠井旅館発
08:55(-----) クッチャ口湖着
09:15(-----) 発
10:55(10:45) ノースプレインファーム着
11:40(11:20) 発
- 23.8km 35分【40.8km/h】 -
12:15(11:50) 渡辺水産直販店 よってまるとみ着 昼食;海鮮丼
13:00(12:40) 発
- 32.7km 35分【56.0km/h】 -
13:35(13:15) 道の駅 香りの里たきのうえ着
13:50(-----) 発
- 80.7km 80分【60.5km/h】 -
15:10(14:45) 銀河・流星の滝(層雲峡)着
16:05(15:45) 発
16:30(-----) 石北岬着
16:40(-----) 発
17:20(16:55) 温泉ホテルつつじ荘着 362.8km 走行
17:30 夕食

9月20日(土) 5日目

07:30 朝食
08:30(08:00) 温泉ホテルつつじ荘発
09:10(-----) ローソン北見大通西店着 体調不良者が出たため

09:20(----) 発
09:30(08:50) DM Gas 端野店着 燃料補給 461.5km 64.16 補給 燃費 7.19km/
09:35(09:30) 発
- 45.1km 55分【49.2km/h】 -
10:30(10:05) 道の駅 ぐるっとパノラマ美幌峠着
11:05(10:25) 発
11:35(----) 川湯温泉着
12:00(----) 発
12:10(----) 硫黄山着 昼食
13:05(----) 発
13:25(----) 摩周湖第一展望台着
14:05(----) 発
14:55(----) 裏摩周湖展望台着
15:10(----) 発
15:20(----) 神の子池着
15:40(----) 発
16:00(----) 道の駅 パパスランドさつつる着
16:10(----) 発
17:00(15:25) オシンコシンの滝着 日の入りも見学
17:30(15:55) 発
17:40(16:05) 民宿しれとこ・ペレケ着 286.8km 走行
18:00 夕食

9月21日(日) 5日目

07:00 朝食
08:00(08:30) しれとこ・ペレケ発
- 10.4km 15分【41.6km/h】 -
08:20(08:45) 知床峠着
08:35(09:05) 発
09:10(09:30) 道の駅 知床・らうす着
09:25(----) 発
10:40(10:45) 開陽台着 (ここにつく間、メロディロードも通りました)
11:30(11:30) 発
- 11.8km 15分【47.2km/h】 -
11:45(11:45) 回転寿司すしロード着 昼食
12:50(12:35) 発
14:00(----) 別保公園着
14:15(----) 発
14:40(----) 釧路SS着 燃料補給 469.5km 65.7 補給 燃費 7.14km/
14:45(----) 発
15:10(14:45) 釧路湿原展望台着
15:30(15:15) 発
15:50(16:00) 道の駅 しらぬか恋問着
16:10(16:15) 発
18:00(18:15) 京屋旅館着 370.4km 走行
18:20 夕食 入浴は近くの温泉銭湯、オベリベリ温泉水光園へ

9月22日(月) 6日目

07:00 朝食
08:05(08:00) 京屋旅館発

- 11.4km 20分【34.2km/h】 -
08:25(08:20) 旧国鉄広尾線愛国駅着
08:45(08:40) 発
- 25km 30分【50km/h】 -
09:15(09:15) 花畑牧場着
09:45(10:00) 発
10:10(-----) 道の駅 なかさつない着
10:25(-----) 発
10:30(10:05) 帯広広尾自動車道幸福インターチェンジ通過
- 72.6km 55分【79.2km/h】 -
11:25(11:00) 道東自動車道トマムインターチェンジ通過
- 17.7km 25分【42.4km/h】 -
11:50(11:20) 道の駅 みなみふらの着
12:20(11:40) 発
13:30(12:40) ファーム富田着 昼食 かなやま湖経由
14:35(13:55) 発
- 54.5km 70分【46.7km/h】 -
15:45(15:30) 道央自動車道旭川鷹栖インターチェンジ通過
16:15(-----) 道央自動車道砂川サービスエリア着
16:40(-----) 発
17:50(-----) 小樽バイパスSS 燃料補給 582.9km 75 補給 燃費 7.77km/
18:00(18:00) 小樽運河食堂着 自由行動
20:55(20:50) 発
21:00(21:00) 小樽港フェリーターミナル到着 443.2km 走行

マイクロバス累計走行距離 1903.6km 平均燃費 7.46km/

フェリー 22:20 乗船開始 新日本海フェリーはまなす号 23:30 小樽港発

9月23日(火) 8日目

フェリー 舞鶴港 21:00 着

タクシー 舞鶴港前島埠頭フェリーターミナル～東舞鶴駅

JR 東舞鶴 21:57～22:25 綾部 22:27～23:17 園部 23:18～23:57 二条 タクシーにて各自解散

8. 会計報告

収入の部

公費 ¥50,000 × 19 = ¥950,000

補助 ¥11,091

合計 ¥961,091

支出の部

フェリー代 ¥273,600

フェリー衛星電話代 ¥293

レンタカー代 ¥126,000

小樽温泉オスパ ¥35,600

笠井旅館宿泊代 ¥85,500

つつじ荘宿泊代 ¥123,500

しれとこ・ペレケ宿泊代 ¥129,200

京屋旅館 ¥85,500

笠井旅館コインランドリー代 ¥700

まるとみ海鮮丼代 ¥28,500

水光園入湯代 ¥7,560
回転寿司すしロード代 ¥19,000
摩周湖・硫黄山駐車場代 ¥820
地図コピー代 ¥190
レポート用紙 ¥105
給油代その1 ¥7,442
給油代その2 ¥9,432
給油代その3 ¥9,329
給油代その4 ¥10,500
高速代総計 ¥8,320
合計 ¥961,091

9. 雑感

4回 羽根優介

9月16日、自宅をタクシーにて出発し、京都駅で皆と集合、電車で舞鶴へ。スムーズに乗船することができ、そのまま小樽に向けて航海が始まった。欧州旅行とその後のバイトの疲れが抜け切っておらず、ほとんどの時間をごろごろして過ごした。17日の夜、小樽に到着し、コンビニで夕食を買って銭湯に入り休憩室で就寝。18日、いよいよバスに乗車。運転手の鈴木はネクタイを絞め、ノリノリ。スイーツ(笑)

高速道路を使用して深川までゆき、そこからは海岸線沿いの眺めのよい景色を快走。途中でおいしいタコ飯を食べる。ちょっと薄味。何十基もの風力発電機が並ぶ道、何もなただまっすぐの道を北上し続け、ノシャップ岬へ。その後、稚内を経由して宗谷岬へゆく。最北端の地で樺太を見るのを楽しみにしていたが、曇りのため見えず。流氷博物館は中々良かった。今度は南下を始め、宿泊場所の笠井旅館へ。あまり綺麗なところではなかったが、接客は暖かく、採れたて新鮮なホタテづくしの料理は大満足だった。それでいて4500円なので、費用対効果ではこの旅館が一番ではなかっただろうか。夜は皆で遅くまで宴。

朝、やはり大量のご飯をいただき、出発。オホーツク海を眺め、草原を走り抜けた。途中、果てしなく道が続く場所で降り、写真撮影等。そして、クッチャロ湖へ。天野がうんこまみれに。まさにうんこマン。ノースプレインファームでは、牛を間近に見ながらソフトクリームと生キャラメル(藤田氏購入品)を食すおいしかった。あと、CL達が牛のうんこの山に立ち幅跳びをして遊んでいた。お昼は、楽しみにしていた海鮮丼。新鮮な海の幸が数種類山盛りで、満足の大ボリューム。ただ、個人的にはイクラと刺身2品程度のモノが食べたかった。

ここでナビを藤田先生と交代し、内陸へ。山を抜け、大雪山方面に向かう。そして、層雲峡へ到着。滝が綺麗で、2本同時に見ることのできる双瀑台に登る。意外に高いところにあり、少々疲れた。行者ニンニク入りソーセージとガラナを購入し、石北峠へ。皆がドライブインに行っている中、藤田氏とヒロタニと崖をよじ登り、全然展望が開けていない展望台へ。そして、狐牧場やら熊牧場やらを横目に見ながら走り続け、つつじ荘に到着。仲居さんたちが接待してくれたが、何となく落ち着かなかった。この日も夜は宴会。途中米田がいなくなり、探しに行こうとしたところ、押入れの中からいびきが。何てトコで寝ているんだろうか。

朝、出発直後にヒロタニが「うげべヴおけkはあじえ」と嘔吐。その後、広大な畑の続く平野を抜けて徐々に高度を上げてゆき、屈斜路湖を見下ろす美幌峠へ。すばらしい景色を堪能しながら、次は湖畔の足湯温泉に。ちょっと掘っただけでお湯が出るところなのだが、ヒロタニがいくら掘れども湯はせず、狂ったかのように掘り続けていた。集合時間を過ぎても帰らず、結局お湯はでなかったのだそう。

次に、硫黄山へ。ここでは集合写真の後、大噴火ラーメンを食す。具が多く、あんも美味しかったが微妙な味だった。噴煙を間近で見た後に出発、摩周湖へ。ここは、スカイラインから地平線を見渡すことができた上、晴れていたために真っ青な摩周を拝むことができた。リスも可愛く、餌をあげた。裏摩周に行った後、今度は神の子池へ。摩周からの湧き水は清く、真っ青であった。神の子がいた。そして、オホーツク海沿いを走りながらオシンコシンの滝へ。オホーツクの荒波の彼方に沈む夕日は目にしみた。日没後、ウトロのペンション・ペレケへ。この日は流石に宴会はやめておき、自分は寝る。隣からは、ヒロタニの叫び声が聞こえてきた。

次の日の朝は、出発からいきなり上り坂で、知床峠まで上った。ここで、国後島(返せ、北方領土)と広大な景色を拝む。次は光ゴケのある場所に行く予定であったが、落石のために閉鎖。道の駅で休憩した後、メロディーロードへ。確かに音は聞こえたが、短く、ショボかった。そして、開陽台に到着。風が強かったが、見晴らしはすばらしく、大地が丸く見えた。折田氏が風景画を書いていた。次に、釧路湿原展望台にゆくために大地を走り抜ける。途中道を

間違えながらも、無事展望台へ。しかし展望台は見晴らしが悪く（伝聞）有料であったため、断念した。

その後、釧路平野、太平洋岸を走る。途中、自衛隊と一緒にの場所で休憩になり、修平さんが女性自衛官と写真を撮った。夕焼けの中、帯広に向けて十勝平野を走り、日没後、無事京屋旅館へ到着。ご飯のグレードが一番低かった気がするが、可愛い犬や立派な部屋など、他のポイントがよろしかった。この日も、温泉に行った後に宴を行った。最終日、出発後に愛国駅へ。ここで日本国家に対する弛まぬ忠誠と愛を感じ取った。次に、お花畑牧場へ。我々は可愛い動物達とふれあい、藤田氏はキャラメルを買うために並び、天野はDSをプレイしながら子供とプレイしていた。そして、富良野方面に出発。途中の道の駅で食べたジャガバターや、イモモチ、ラベンダーソフトは美味しかった。ファーム富田では、昼食をとる。メニューはソーセージカレー、ニョッキ。おいしかったよ。その後は一路小樽へ。長い道のりの中、運転手が何度か横に頭を振る。何とかたどり着き、解散の後に小樽ラーメンを食す。その後市内に繰り出したが、閑散としていて何もなかった。お土産にガラナを大量購入した。帰る途中、まりもっこの歌を聴いたが、あれは中毒性が高い。そして、皆集合したらフェリーに乗船。またノンビリ寝たり甲板で語り合ったりしながら舞鶴に向かった。そして、雨の中入港し、タクシーとJRを乗り継いで帰京。さらにタクシーに乗り、無事帰宅することができた。

今回の旅行は、鈴木氏の体力と集中力に全てを委ねた合宿であり、彼に万が一のことがあれば即座に行き詰まってしまうような行程であった。彼一人に重い責任がのしかかっており、それを無事に乗り切れたのは大変素晴らしいことである。企画も全て自分自身で立てていたのだから、何事もなく成功できたということはこれからは強い自信になるだろう。しかしながら、会計に関して、ドライバーもやりながらCLがやるのは如何なものだろうか。把握のしやすさや会計の一貫性、といったいい面がある一方で、行方不明金や数え忘れが発生し、一部の人間に負担を強いたという悪い面もある。この点は、今後見直すべきであろう。

4回 藤田琢也

直前まで山に行っていた所為か、趣の違いに戸惑うことが多く、必ずしもすべてを満喫できたとは云えないですが、車での2000km近くの移動や水平線を朝晩に行き来する太陽、懇々と水を湛える摩周湖など、雄大な自然をととも身近に感じる事ができました。それ以外にも、各食事で味わった北海道の特産物は印象的です(微妙な閑散期ではありましたが...)。特に「笠井旅館」の食事は絶品！

改善点としては、もっと一ヶ所に滞在できる時間を長くし、それぞれの場所をじっくり堪能できる時間があれば、さらなる充実感が感じられたと思います(特に知床辺り?)。また、行動計画の把握が一部の人に限られており、自分の現在地や次の目的地、ルート上の観光スポットなどが周知されていなかったのだから、簡単な地図を全員に配布する&見処紹介など、その時々で柔軟に計画を変更していける形になると更に楽しんでもらえるかなーと思います。

次、北海道に行く機会があれば今回の合宿を参考にして、さらに満喫できる旅にすることを心に舞鶴港へと帰港しました。

長旅、みなさまお疲れさまでした。

4回 沼田智哉

初めての北海道という事で大きな期待と楽しみを抱いての合宿でしたが、普段出来ない経験ができ、とても有意義な時間を送れたと思います。北海道の大自然に触れキレイな景色も見れてとても満足しています。さらに公費も安く、宿泊施設も快適でした。全体としてとても良かったのですがもう少し街中のスポットを回れる機会があればさらに良かったのではないのでしょうか。

個人的な反省点としては朝の準備が遅く、毎回出発時間ぎりぎりになってしまった事。団体行動において時間厳守は最低限のマナーであり、周りの迷惑になってしまうので次回からはもう少し余裕を持って行動するよう努力したいと思います。

最後に長時間の運転をしてくれた鈴木を始め、藤田、羽根、部員のみんな1週間本当にお疲れ様でした。ありがとう。

4回 山本修平

七泊八日という長期にわたる合宿にもかかわらず費用がとても安く抑えられていて、且つ良い宿に泊まる事ができたことにとっても満足できました。

ただその中で敢えて注文があるとすれば、まず1つは観光先が自然ばかりだったように感じたので、文化的な観光先もあればなお良かったのではということ。

次いで挙げられるのは全体を通して時間にゆとりが少なかったと感じたことです。個人的にはとみたファームで時

間が足りなかったことが残念です。

そして私個人の反省点は笠井旅館をたつ朝の集合時間に数分遅れてしまったことです。それとともに最後の宿での晩に、折田さんにお酒をすすめ過ぎたことではないかと思えます。このせいで翌日体調がすぐれなかったのであればすみませんでした。でも楽しかったのでまた・・・、(´U`)ノ

では文の最後で申し訳ないけど、一週間も運転やら時間の管理やらをしてくれたけんご、羽根さん、藤田先生ありがとう。感謝してます m(._.)m

3回 橋崎裕幸

入部以来、ここまでの大名旅行は初めてでした。

夏の合宿ラッシュを乗り切った自分にとっては、それらの締め括りとなる慰安合宿となりました。こんな素敵な企画を遂行してくれた鈴木さんに、まずは感謝を。

肝心の北海道についてですが、今回は自転車での一周というストイックなモノだったこともあり、車での移動に感動してしまいました。六割以上のルートが前回走ったときと被っていたので、懐かしい気持ちでの北海道旅行となりました。時間の都合で行けなかった『神の子池』や『開陽台』にも今回は掘ることができ、前回の無念さを晴らせたのも嬉しかったです。なによりも、秋の北海道は本当に魅力的でした。細かい話は他の方に依るとして、雄大な自然と美味しい食事には大変な満足をもらいました。全行程を一人で運転しきった鈴木さんには、本当にお疲れさまを言いたいです。

反省点ですが、集合時間に一度遅れたことと、日程の後半は疲れ気味で車内で眠る時間が多かったことでしょうか。

次に改善点、というか提言を。次に同じような企画があるならば、一ヶ所にもう少し多くの時間を割り、多くのものを学ぶスケジュールもアリかなと思いました。コンセプト的に今回は仕方がないのですが、できれば探検部員である皆には、北海道という土地の文化や、極地に道を拓いた先人の偉大さ、大自然の偉力と云ったものを肌で感じてもらいたかったです。今後の活動に繋がるような、何かしらの興味を抱いてもらいたかったので。でなければ、探検部としての活動である意味合いが無いように思います。

とはいえ、秋以降の活動への英気を養い、部員同士の親交を深めるには最高の合宿でした。

皆さん、お疲れさまでした！

3回 山下友輔

今回の北海道旅行は天候に恵まれて、毎日晴れていたのが印象的だった。

16、17日

フェリーで楽しい20時間を過ごし、小樽温泉オスパに泊る。少し肌寒かったのがのが北海道を感じた。

18日

北海道らしい真っ直ぐな道路を走り、宗谷岬に着いた。ここに着いた時点で、ある事情でソフトクリームを5つ食べていたので、この先が不安になった...

19日

昼食に食べた海鮮丼がとても美味しかった！ 層雲峡では銀河の滝も印象的だったが、ここのプリンは二押しではなくイチ押しだというおばさんに捕まり、そこそこのプリンを食べたのが良い思い出。

20日

屈斜路湖では、必死にスコップで温泉を掘ろうとしている人を見ることが出来た。次に摩周湖では野生かどうか微妙なリスがかわいかった。宿につき「酋長の家」に行ったのだが、閉まっていたが橋崎と千葉が入って行くと開けてくれた。2人の顔の広さに驚いた晩であった。

21日

開陽台は視界 330° により地球が丸く見えて圧巻だった。最後の宿では、最後ということで一部がハメを外し過ぎた感もあったが楽しかったので良しとしよう。

22、23日

ファーム富田ではラベンダー畑は時期により見るができなかったが、念願のジンギスカンを食べる事が出来た。小樽では、最後に海鮮丼を食べることが出来て良かった。そして、帰りのフェリーも楽しく20時間があっという間だった。

今回の旅行の良かったところは、親睦を深めることができたことだ。特に、一回生と仲良くなれたことは次に繋がるだろう。悪かったところは、運転手で忙しいのに会計も1人でやっていたので、負担を減らすためにも分担したほうが良かったのではないのか。個人的な反省点は、この感想文もそうだが、約束・集合の時間を守れていないところだ。

旅行を通して分かったこと、感じたことをこれからの自分の合宿にいかしていこうと思う。

2回 杉山智也

北海道はなかなか行ける所ではないのでいい経験ができました。特に神の子池は雑誌などでもよく見ているので行って良かったです。食べ物もめっちゃうまかったです。海鮮丼最高でした！こんないい旅行で5万という価格はほんとに安すぎですよ。またこんな旅行に行きたいです。話によると千葉くんが免許を取って引き継いでくれるそうなのでとても楽しみです。

反省点はときどき集合の時間に遅れてしまって予定をずらしてしまったところです。

要望としては、バス移動の時間が長くてみんな会話がなくなることが多かったのでバスガイドさんみたいな役の人を決めて次に行く所や今通っているところの説明などがあると更に盛り上がると思います！

あと小樽のときのような自由行動の時間をとるといいと思います！

2回 千葉弘貴

今回の北海道旅行は大学に入ってから二度目ということでしたがバス旅行ということもあり、とても楽しめました。何せ前回は自転車で北海道を一周したものですから今回は北海道を楽しむ余裕があったからです（笑）

特に印象に残ったところは摩周湖の神の子池です。透き通っていた池に深く感動しました。そして、開陽台等、他にも前回行けなかった所を今回補完することができ非常に満足しました。

宿、休憩など計画通りスムーズに進み、とても良かったです。

そして、改めて只一人の運転手をして下さったCL様、本当にお疲れ様でした。また合宿を開かれる機会があれば参加したいです。

2回 米田裕一

前から北海道に行ってみたかったので、今回の北海道バス旅行に参加しました。今回の北海道バス旅行で良かった事は、『神の子池』や『摩周湖』など、前から行きたいと思っていた観光スポットに行けたことです。そのほかにも北海道の有名な観光スポットを多く見れた事が良かったです。

悪い点は特にありませんでした。ただこの合宿ではドライバーを一人にまかせっきりにしてしまうので、交通安全が心配でした。でも特に事故もなく無事に合宿を終えることができたので良かったです。

この合宿ではいつもの探検部の合宿とは違い、旅行気分を楽しむことが出来ました。

2回 折田みゆき

今回の合宿は、普段の女の旅行では行けないようなルート・宿泊場所などで構成されており、とても面白い7泊8日だった。個人的には白樺を見ること、オホーツク海を見るのが目的だったといっても過言ではないので、それが達成された今はもう何も言うことはない。

ただ出発3日前から地図帳を探していたのにも関わらず、結局見つからず道の駅やSAで立ち読みし場所を確認するしかなかったのは今回の合宿最大の過ちだった。

車から景色を見ていて気づいたのは、2年前に比べススキが減り背高泡立キリン草がやたら増えているように見えたことである。これはとてもショックな事だった。ただ単に時期がずれていたからそう見えたのかもしれないがこれ以上日本からススキが減ってほしくない。

とりあえず、北海道でソフトクリームを一個しか食べなかったことをカバーできるくらい沢山の景色を見れた。私はそれで満足である。旅館での食事申し分なかったし、何より合宿で毎日お風呂に入れて、布団で眠れること自体贅沢だったので今回の合宿でただの参加者として不満な点は一切ない。天候にも恵まれ、よい旅の思い出ができた。

最後に、鈴木さん、羽根さん、藤田さんには本当に感謝の気持ちでいっぱいですし、何もなくて申し訳ないと思っています。長い時間をかけて綿密な計画を立ててくださったおかげで本当に素敵な合宿に参加することができました。ありがとうございました。

2回 柿原精太

今回の旅行が非常に楽しかったので、来年再来年には自分で企画できるようになりたいと思った。

旅行中に行った場所は、神の子池と摩周湖とオシンコシンの滝がとても綺麗だった

笠井旅館さんが居心地良かったので、機会があれば是非また利用したい

改善点...集合時間までに座席に着いていない人がでたこと・忘れ物や落とし物が多かったので個人の持ち物の管理

を徹底すること・車内にゴミを放置する人が多かったこと・最初の宿での食器の片付け・シートベルトの装着を忘れたこと

2回 下田拓未

この旅行に参加して僕は初めて北海道の地を踏むことができました。雑誌とかでしか見たことがない数多くの雄大な自然の景色を眺めて感動を覚えました。景色を見て印象に残ったのは摩周湖と神の子池で、どちらも水が綺麗で摩周湖の方は周りの山々の緑と景色が良く合っていて紅葉の季節にも来たいと思うほどでした。神の子池の方はあまりにも綺麗な水だったため驚きました。宿のご飯は魚介類が主に中心でどれも満足できる内容でした。また、個人的に笠井旅館で食べたホタテ料理が一番良かったと思います。最終日の小樽ではライトアップされたどこか懐かしい感じがする街並みやロマンチックな河辺を見て来ました。どの風景も今までに見たことがないという気持ちになりました。小樽のことはあまり知らなかったけど、ガラス細工やオルゴールの店が沢山見受けられたので有名なのかなあと思いました。店には入ってたけど欲しいと思う物がなくて買えませんでした。しかし、店内で見た幻想世界を思わせるほどの美しい光景を目の当たりにできたので後悔はしませんでした。全ての日程を振り替えて晴れの日が多く、そのおかげで楽しく旅行ができ北海道のいい所を存分に感じる事ができたと思います。

2回 湊屋和也

僕は子供の頃から北海道に行きたいと思っていました。父が北海道旅行に行った思い出を小さな頃度々話してくれていたからです。父はフェリーに乗り北海道に行ったらしく船から段々見えてくる北海道に感動したと言っていました。

今回の企画は幸運なことに父の旅行と同じく海路での上陸となり、子供の頃からの憧れが実現でき、感慨深いものとなりました。現地では美味しい海産物がたくさん楽しめ、(鈴木さんには申し訳ありませんでしたが)車内で相当な時間睡眠をとり、体重が六十代になってしまいました…。所々で入浴した温泉も大変気持ち良く、とても良い思い出ばかりができました。安全で快適な旅を計画してくれた企画者のみなさん全てに感謝します。

また次回バス旅行企画があれば是非参加したいです。

2回 天野賢士

- ・普段接しない人の人となりがある程度知れた
- ・出発前、計画書に書いてある運転時間と距離をみてスリルとサスペンスを感じた(取り越し苦労でしたが)
- ・どの食事が自腹で出すのか公費がでるのかを明確にしてほしかった
- ・行きのフェリーの中で400円負けた
- ・バスの中でのアクティビティがあれば、と思った(ムチャな話ですが)
- ・この年齢でウンコマンと呼ばれるとは思わなかった
- ・バスの席替えのクジは勘弁してほしかった
- ・どこを走っているのかさっぱり分からなかった、知床の場所がいまだに分からない
- ・車内でかける音楽CDを全員に持ってこさせるみたいなことをやったらおもしろかったかも知れない
- ・帰りの小樽での3時間は個人的には長かった
- ・サイコロの出目が悪かった
- ・帰りのフェリーの中で800円負けた
- ・後半は班が機能していなかった気がする
- ・4キロ太った

私は北海道に対してぽつねんとオセンチしたイメージを持っていたので、19人のバスツアーという賑やかなそれにギャップを感じました(だからどうしたというわけでもないのですけど)。

このバスツアーを肥やしにして、残りの大学生活中に北海道旅行はリベンジしようと思います。

2回 廣谷潤

北海道旅行の前日、僕は某先輩の家に居ました。マイクロバスにはカセットしかついていないらしく、ならカセットテープに録音しようか、とのことでした。確かに長いバスの中ラジオだけでは辛いものがあります。先輩との協力により、今回使われるであろう三本のテープが完成しました。

しかし翌日に実はバスが新しくなったのでCDが使えるという事実が発覚したため多分永久に流されることはないでしょう。中身は音飛びやA面とB面を跨いで録音してしまっていたので一向に構いませんが。これもある意味良き

思い出です。

フェリーは去年にも一度乗りましたが、やはり疲れていないのと人数が多いことで、さながら修学旅行のようでした。

北海道についてからのバス内は、奥に荷物を固めたので予想していた足元に置くという事態にならなかったため、案外快適でした。旅館もテントとのギャップもあり、のびのびと休むことが出来ました。遅くまで起きすぎたため翌日のバスで寝てしまったのが残念ですが。

探検部で純粋に旅行をするということは考えたことが無く、去年のバン旅行に行って無かったので、北海道バスツアーは魅力的でした。ドライバーが一人しかいなくて1日10時間の強行だったので不安でもありましたが、何事も起こらずに無事に終了したので良い思い出となりました。

ただ今回の旅で調子にのって飲んで翌日皆様に迷惑をかけてしまい、申し訳ありませんでした。

2回 石田智視

16・17日

集合時間通りについたものの学割証を忘れてしまい迷惑をかけてしまった(すいませんでした)。小樽オスパでは布団が足りなくて布団横並びに寝たのが修学旅行みたいで懐かしかった。

18日

北海道旅行始まり！の日。最北端の宗谷岬は行きたかったのが嬉しかった。笠井旅館は女将さんが朗らかないい人で料理も美味しく、最高だった。

19日

牛を間近で見れたり、生キャラメルや牛乳など牧場のある土地ならではのものはいいなと思う。海鮮丼のボリュームはすごかった。満足。

20日

摩周湖の空と山が映る様子は水鏡そのもので綺麗だった。野生のリスは、人の手からえさを食べるほどに慣れていてとても可愛かった。これは旅の中で思い出に残る。けどもう野生ではないなと思った。硫黄山は、見たことのない景色で見てよかった。ペレケに着いた後「曾長のいえ」に行きアイヌ文化の話をきいて、文化は人が残さないと消えてしまう、ある文化が消えるのは人にとってとても悲しいことだと色々考えさせられた。ペレケで出会った大阪のおばあちゃんと話したのはこの日のいい思い出。旅の楽しさのひとつだ。

21日

この日は開陽台が印象的だった。どこまでもというか一面地平線で、地球は丸いと実感した。寒くて長い間眺めなかったのが残念だけど、いいところだった。

22日

富良野！と期待したラベンダーは数輪しか咲いてなかったけど、サルビアが綺麗だった。ファームのドライフラワー舎は行ってよかった場所。あんな規模のドライフラワーを見たのは初めてだった。小樽周辺は閉店ギリギリの時間であまり店に入れなかったけど、オルゴール館には入れて嬉しかった。

23日

行きより短く感じた。

バスの集合時間に遅れたり学割証を忘れたり...が特に私の反省点。団体行動である以上はきちんとする所はしっかりするべきだった。

旅行で北の大地や道、緑、海、文化など知らなかったところを知れて楽しめた。

ドライバーの鈴木さんには最大のお疲れさまと感謝の気持ちでいっぱいです。私の人生に北海道の思い出を頂き、ありがとうございました。

2回 岩本唯

9.16. 京都 舞鶴

みどりの窓口で切符を買おうとするが、失敗。電車、バスと乗り継ぎ船に。船の中は思ったより綺麗。部屋はじゅうたんでそこで雑魚寝。船内は揺れましたが意外と寝れました。

9.17. 小樽

日の出を見に早起き。やはり朝は寒い。しかし防寒具はパーカーの一枚で足りる。20時間、フェリーは耐え難い。娯楽用品を充実させとくべきでした。時間が有り余るので、洗濯物を洗ってみたが、乾かない。乾燥機は必要だったようです。

9.18.小樽 稚内

風車が並ぶ光景、果てしなく広がる壮大な大地、長い一本道、新鮮な食べ物には圧巻でした。たこめしは少し薄味だったけどおいしかったです。宗谷岬にて、馬肉と鹿の肉が入った馬鹿やろーカレーを購入。パッケージが素敵でした。

9.19.稚内猿払 留辺蘂

牧場で牛乳を飲む。味は濃厚。また牛を間近で見れましたが、すごく可愛かったです。また四つ葉のクローバーを見つける。お昼の海鮮丼が美味でした。

9.20.留辺蘂 ウトロ

摩周湖では珍しく霧のない風景が見れました。水面に映る風景が幻想的でした。また神の子池は森の奥深くにあり、水中から淡い美しい水色が溢れ出ていた。それはとても神秘的で思わず感嘆の声が洩れました。お土産はまりもキューピーを購入。妖怪みたいなのでお気に入りです。

9.21.ウトロ 帯広

メロディロードが可笑しかったです。でも開陽台から見る景色は見事でした。旅館は家庭的な雰囲気。お風呂は近くの温泉に行きましたが、広く露天風呂もあり快適でした。後、昆布ソフトは個人的にヒットでした。

9.22.帯広 小樽

ふれあい広場で動物と触れ合えて楽しかったです。得に馬とブタが愛らしかったです。また富良野のラベンダーや花畑、小樽の運河が綺麗でした。また北海道で食べる、じゃがバタとコロッケは特別でした。

9.23.

フェリーにて帰還。最初は長い船旅に憂鬱でしたが、これまでの日々を懐かしみながらゆったり帰るのも良いなと思いました。

まとめ

今回の北海道旅行はすごく楽しめました。風景を見るのが好きなのですが、今回はいろんな場所に行けたのですごくよかったです。しかし前日夜更かししたのにも関わらず、景色を見るためバスの中で寝ずに頑張っていました。結果、さすがに後半はきつかったです。やはり無理せず寝るべきでした。後、長旅の場合は娯楽用品を充実させるべきですね。

1回 兼松純平

今回、初めて北海道に行った。しかも7泊8日。こんなに長い旅行に行くのは初めてだったし、少し不安もあったが、楽しい旅行だった。フェリーにもはじめて乗り、その広さと快適さに驚いた。夜、小樽に着きまず一泊。次の日から本格的に北海道観光が始まった。

マイクロバスは思ったより広くて安心した。はじめは、少し都会っぽくてびっくりしたけど、だんだん農家や牧場が増えてきた。

屈斜路湖や神の子池など、京都とは違った自然を満喫できた。食べ物もおいしかったし、本当にいい旅行だった。また機会があれば今回行っていない場所にも行ってみたいと思った。

4回 鈴木健悟

この合宿を開くに先立って、当初立てていた計画は能登半島をめぐる1泊2日あるいは2泊3日の旅行であった。それが1週間もの旅程を使った北海道旅行となった理由は、羽根家で自分に加え、同回の羽根君、3回の橋崎君の3人で能登の計画を立てていたとき、どうせなら夏休みの後半を使い北海道1周旅行にしてはどうか。という話が出たからである。その話が出てすぐ、試算をし、数時間掛けて北海道バス旅行の原案ができあがった。約1週間で行き帰りはフェリーでマイクロバスを借りて移動、宿泊は宿舎。費用は6万。コストパフォーマンスは抜群であり、すぐに能登から北海道に計画のすべてを切り替え、部のミーティングでも報告した。こうして実行4ヶ月前、まだ新歓行事が終わった頃、通称「プロジェクト北海道」が始動することとなった。

計画の一番の骨子はルートスケジュールである。これは日程をみすえた計画が必要であり、二転三転した。理想=行きたいところと、現実=時間の違いが出てくるからである。マイクロバスを運転するのは1人だけであり、無理な日程設定はできず、また、ただ単に観光スポットをちょっと見てまわるだけというのも面白くない。かといってせっかくの北海道であるからある程度のところはまわって見たい。ひたすら計画の練り直しが行われ、最終期限である7月の上旬には何とか落ち着いた。

また、お金のほうも頭の痛い事項であった。公費を安く設定することは簡単である。極端な話、探検部という性質上、幕営経験をほぼ全部員が持っているのだから、宿舎なんかに泊まらずに幕営すればよかったからである。しかし、

ここで乗ることになるであろう車輛の積載のことも考えなくてはならなかった。マイクロバスは、観光バスのような大型バスと違い荷物を置くスペースがほとんどない。したがって、テントやシュラフなどの団体装備は出来るだけ減らしたかった。また、同様に、人数も適正な数にしなければならない。人数が多ければそのぶん公費は安くなるが、荷物の置くスペースが限られ、車内で快適にくつろげなくなってしまうのである。

これらの事案を前提に試算した結果、宿舎泊ならば、適正人数は20名であるとの結論に達することとなった。そして次は参加メンバー集めである。前述の事項を前提にしている以上、必要な人数は集めなければならない。当初、その人数は15名に設定した。具体的なメンバー集めは、まず口頭とメールの2段階をとった。この合宿はほかの合宿と比べ、かかる費用が相対的に高く、集まるかどうかかなり不安があったが、22名を集めることができた。そして合宿開催前まで多少の人数の変動はあったものの、最終的に20名が参加してくれることとなった。合宿開催にあたり、十分とは言わないまでも、適正な人数である。そして宿舎およびレンタカーの手配は7月中旬には完了させ、フェリーの方も夏休み中には手配を終えることが出来た。

これらの計画と並行して自分にはやるべきことがあった。それは「マイクロバスを運転できる」能力の取得である。自分は当時、8t限定の中型免許をもっていたが、あくまで「限定」であるため、マイクロバスは運転できない。免許も持っていないのに、免許取得を前提とした合宿を計画したのは、一種の賭けであったと思う。だが、当たり前のことでもあるが、勝算は十分にあった。法改正前の自分の免許取得日は2006年の8月30日。中型限定解除の卒業検定を受けられるのはこの日以降となる。だが、教習に関してはこの日以前でも可能であるとの情報を得、ハンコがもらえなかった場合も想定して、7月はじめに実家に帰り、近くの教習所に通い始めた。教習車は8tトラックであり、最初、内輪差にだいぶ苦労した。また、後方間隔という実技科目も、キツかった。だが、幸運にも規定時間で終わることが出来、卒業検定前に2ヶ月ほど間が空いてしまっていたので1回だけ自由教習を受け、卒業検定に臨んだ。実はこの時、前々日あたりから38℃近くの熱を出してしまっており、そのまま検定を受けることとなってしまった。そのせいかどうかは分からないが必要以上に慎重になってしまったらしく、検定担当教官から、「もっとスピードを出せるところでしっかりと出せ。」と言われてしまった。しかし、大きなミスもなく、検定には無事卒業することができ、北海道行きの条件のひとつを達成することができた。

そしていよいよ合宿当日である。前々日に急遽1名のキャンセルが出たものの、それ以上メンバーが減ることはなく、19名、誰も遅刻することなく、定刻に東舞鶴駅に集まることができた。

そこからはまずフェリーで小樽へ向かう。我々は19名で2部屋を使うことが許された。やはり我々だけということで、他のお客さんに気を使わなくてすみ、だいぶラクだった。ただ、同室のメンバーには自分のいびきでかなり迷惑をかけてしまったようだった。翌朝、起きると船は海の上を走っていた。当然であるが、自分は主に同回の藤田君から借りた本を読み、時間をつぶした。途中で、宿舎に人数が1名減ったことを伝えるために電話をかける時、携帯電話が圏外だったためフェリーに備え付けの衛星電話を使ったのであるが、電話が終わってから30分後くらいに電波が入ったのにはだいぶ損した気分になった。フェリーには食堂がついているようだったが、自分は動いていないせいとお腹はすかなかつたので、持ってきたお菓子をつまむ程度だった。ただ、下船前には自販機式の焼きおにぎりや鳥のから揚げを買って食べた。

下船時は特に問題はなかったが、ちょっとしたトラブルにより船の中を往復することとなってしまった。そしてフェリーターミナルを降り、北海道の地を生まれて初めて踏んだ。だが感傷にひたっている暇はない。すぐにレンタカー会社の人に挨拶をし、マイクロバスの引渡しの手続きを行った。そしてある程度車内設備について説明して頂いた後、いよいよ初めて、マイクロバスを運転することとなった。

今回借りたマイクロバス、三菱ふそうのローザは車体全長7メートル、ハイエースやキャラバンなどのワンボックス車より2メートルほど長い。この2メートルの差というのはけっこう大きい。乗用車と違って内輪差をかなりシビアに考えなくてはならないからである。だが、逆を言えば、後輪が脱輪ないように気をつけていれば乗用車とたいして変わらない。あとは、追い越しのとき車体の長さを考慮に入れて元の車線に戻るくらいである。いきなり結論になってしまうが、マイクロバスの運転はそこまでむずかしくないということである。ただ、ひとつだけ問題があり、助手席の位置に冷蔵庫があるため助手席がなく、運転席の横には補助席しかないことである。しかも足元がエンジンのため、足の置き場所が斜め前となってしまう、更に補助席のためシートベルトがなく、急停車したときロケットとなることは確実であった。ただ、このことで逆に乱暴な運転ができなくなるという抑止効果もあった。

バスが出発してすぐ、宿泊場所である小樽温泉オスパに到着した。だがここでまず最初のトラブルが発生する。貸し出し用の敷布団、まくら、掛け布団の3点セットが人数分ないのである。仕方ないのであるだけ全部借りた結果、1つのふとんで約2名が寝ることとなった。そしてやはり布団からはみ出す人が続出し、一部の方々は布団で寝られないと言う事態に陥ってしまった。幸い、風邪をひく者もいなかったが、申し訳ないことをしてしまった。これなら

まだフェリーの中の方がマシであったらう...

3日目、いよいよ出発である。その前に私は今回の旅行で運転手を務めるにあたり、ネクタイにカッター、スラックスを持ってきていた。理由は18人の命を預かるということで、気を引き締めようと思ったからである。しかし、それらに加え白手袋をはめていたおかげで、外観が完全にそこのバスやタクシーの運転手となってしまった。まあ事実運転手なんだからおかしいところはないが、それにある程度予想もしていたし。

午前7時5分前。バスはみんなを乗せて出発した。出発していきなり高速に乗る。市街地を走らなくていいのは助かる。バスは順調に走っていき、ひとつめの休憩場所である砂川サービスエリアに到着した。ソフトクリームを買おうと思ったがここは我慢する。そして道央道から深川留萌道に入ったが、とんぼの集団の中をはしることとなってしまった。80km近くで、斜めになっている乗用車と違い、ほぼ垂直になっているバスのフロントガラスにぶついたらどうなるか。御想像のとおりである。高速をおりて一般道に入り、海岸線を十数分ほど走った後、2回目の休憩場所である道の駅に到着した。私はここでフロントガラスを見るに見かねて掃除した。やはりフロントガラスが綺麗だと気持ちいいものである。

バスは海岸線をひたすら走り、道の駅富士見に到着。ここでお昼ご飯である。去年、自転車でここを通った橋崎から「たこめしがうまい」という情報を入手していたので、それを買い求めようとするが、売り切れており、ちょうど炊いているところであった。さすがにお腹が減ったのでたこめしを注文するが、途中でたこめしも炊けたようなのでそれも注文した。味は想像していたより薄かったが、じゅうぶんおいしかった。そして北海道での初ソフトクリームも頂いた。味は夕張メロンだった。

お腹がふくれたところでバスは出発した。ここからはオロロンライン、数キロにわたり、平原が続くライダーが1度は走ってみたいと言う道路である。御多分に漏れず、私も今回の旅で走ってみたいところナンバーワンである。前評判どおり、何もないうまっすぐの道がひたすら続く。ただ、バス自体がディーゼルなので加速力がほとんどなく、あまり加速感を味わえなかったのが残念である。途中でとまったサロベツ原野パーキングでは風力発電の風車と原野の風景が北海道を醸し出していた。北緯45°モニュメントは一度通り過ぎてしまったがUターンして戻った。マイクロバスならではであると羽根が言っていたのが思い出される。

その後はひたすらオロロンラインを北上した。当初の計画では宗谷岬に向かう予定であったが、時間がかかり余っていたのでノシャップ岬も回ることにした。ノシャップ岬では15分の休憩であったが、正直短かったように思う。まだ時間があまっていたので、もうちょっと時間をとってもよかったと思った。ノシャップ岬のあとは、稚内市内で一度燃料を給油し、日本最北端の宗谷岬へ向かった。着いた時刻が13時45分。この時点ですでに予定よりも1時間も早かった。

宗谷岬は日本最北端の地ということで、一度訪れてみたいところだった。空気があまり澄んでいなかったのか、樺太(サハリン)は見えなかったが、まだこの先に「本当の日本最北端の地」があったことを思い、領土問題を間近で感じた。ここでは、この合宿初めての集合写真を撮影した。出発は当初予定より45分早い時間だったため、やはりここでももっと時間をとって良かった。

宗谷岬から30キロほど南東に走ったところに猿払村という村がある。我々の宿泊場所はこの猿払にある笠井旅館さんという旅館である。ここは予約したときに、宿の御主人に、我々が御主人の娘さんと同じ京都の大学ということで、宿泊料金を安くして頂いた。そして夕飯を頂いたのが、これがまたすばらしい料理で、ホタテの刺身やすき焼きが出てきた。特にホタテはとれたてということで非常においしかった。その後、宿には3箇所泊まったが、この食事が旅行中、一番のおいしさであった。夜は、他のみんなは宴会をしており、加わりたい気持ちもあったが、ドライバーということでアルコールの摂取を控えるのと同時に、体力の温存を図るため、10時頃には就寝した。

合宿4日目。朝5時に目が覚めた。普段でもこんなに早く起きることは早々ない。外は前夜、雨が降ったようだが、すでに上がっていた。自分は、マイクロバスの汚れていたフロントガラスを軽く洗車した。朝から掃除をするなんて、大学に来る前の実家以来である。まあその頃は日常的にやっていたのであるが。

朝7時10分前、まだ寝ている人たちをたたき起こし、朝食を食べ、出発用意をした。出発前には女将さんとみんな、宿の前で記念写真を撮った。こんなにいい宿は初めてであった。また、北海道に行くときは是非利用させて頂きたい。

出発は8時5分。浜猿払から本来のルートを少し外れ、海沿いのルートをいくことにした。ここは車がほとんど走っていないのか、感覚的なものであると思うが、オロロンライン以上に走りやすかった。が、疾走感があったものの、やはり加速感が味わえなかった。そして途中で車を何回かとめ、北海道の雰囲気を楽しみながら南下した。クッチャロ湖が近いということで、本来の予定を変更してそこへ向かうことにした。バス旅行でありながら、バックツア

ーにはない、つまり一応予定はあるものの、弾力的な運用が可能である個人旅行ならではのことである。

クッチャ口湖のあとはノースプレインファームに行き、藤田君の購入した生キャラメルを少し分けて頂き食べてみた。また、この合宿通して一番近くで牛を見られたのはここであったと思う。その後は、予定より少し遅れて昼飯場所の、紋別にある食堂よってけまるとみというところへ行き、海鮮丼を食べた。豊富な海の幸が入っており、おいしかったが、ごはんの量がちょっと物足りなかった気がする。自分としては東京の築地で食べた方に、初めてだったというアドバンテージがあると思うが、軍配が上がった。

そして次の目的地は、北海道でも有数の観光地である層雲峡であるがその前に道の駅で休憩を取り、ここで北海道2度目となるソフトクリームを頂いた。味は「芝ざくら」というものであり、確かに桜っぽい味はしたような気がしたが、どこらへんが芝桜なのかは分からなかった。層雲峡に近づくとつれて、それまでほとんど車どおりのなかった道が混み始めてきた。やはりここは観光地である。ということを実感させられた。層雲峡では銀河の滝、流星の滝というところに観光に行った。駐車場の近くからでは、それぞれ滝は片方ずつしか見られないが、自分も含めて一部の人は両方の滝がいっぺんに見られると言う双瀑台という、駐車場からは200メートルくらいあがったところにある展望台まで登った。そこから見た滝は綺麗だったが、それよりも登りで非常に疲れてしまった。

層雲峡からは石北峠を經由して北見方面へ向かい、宿泊場所である温根湯温泉、温泉ホテルつつじ荘へ向かった。ここでは、よくホテル等で見る「歓迎 京都産業大学探検部 様」という看板が出ており、なんとなくうれしかった。夜はごはんを食べ、温泉に入ったあと、部屋で宴会が開催されたので、私も最初の少しだけ参加させて頂いた。

5日目。起床はやはり5時。ここでは朝から温泉に入れるということなので、温泉に入ってから、前日と同じようにマイクロバスを軽く洗車し、ごはんを食べ、8時半に宿を出発した。当初の予定では、美幌峠から屈斜路湖、摩周湖を経て斜里の方へ抜ける予定であったが、私も行きたかったがルート編成の都合上、除外せざるをえなかった神の子池という池に、ちょっと無理をすることになるが行くことにした。

出発してからすぐ、メンバーの1人が二日酔いで気分が悪くなってしまったということで一度コンビニに寄った。そして途中、北見市内で給油をし、美幌峠へ向かった。途中、美幌高校の強歩遠足大会に出会った。後日、調べたところによると男子は50キロ超、女子は40キロ弱を走るor歩くらしい。峠を往復で、バスやトラックの排気ガスにまみれながら頑張る高校生の姿を見て、心の中で応援するとともに、自分も今回の旅行の唯一のドライバー要員ということで、気を引き締めた。

美幌峠に着いたのは10時半。駐車場から少し歩くとそこに展望台がある。そこからは屈斜路湖が見える。とある雑誌では北海道の景色ランキングで1位だったそうだが、それに違わず素晴らしい景色だった。その後は大幅に予定を変更し、まず屈斜路湖を川湯温泉経由で硫黄岳の駐車場へ向かった。その途中、屈斜路湖畔にある砂湯というところに寄った。ここでは砂を掘るとナント温泉が湧き出てくるらしい。2回生の廣谷君が、何かに取り憑かれたように砂を掘っていたのが印象的である。

砂湯のあとはおひるごはん場所である硫黄岳に向かい、そのレストハウスでお昼を取った。自分は噴火ラーメンというラーメンを頂いた。これは海鮮系のラーメンで、なかに中華丼でかけるような「あん」が入っており、それが熱の発散を防ぐ役割を果たし、なかなか冷めずにずっと熱さを保っているというラーメンであった。おいしかったが、非常にボリュームがあり、普段のように汁まですべてを飲み干す前におなかいっぱいとなってしまった。肝心の硫黄岳の近くまで行く時間はほとんどなかったが、羽根君と下田君は実際に硫黄が噴出していることまで行って来たようである。また、羽根君の話によると、ここでは昔から暴力団による温泉卵の販売が行われており、年間莫大な収益を上げていたらしい。事実、「暴力団関係者による無許可の温泉卵の販売に注意して下さい。」という看板が掲げられていた。

硫黄山の駐車場を出発した後は摩周湖に直行した。摩周湖は透明度日本一を誇る湖であり、流れ入る川もなければ流れ出る川もない。そして周りを山に囲まれているため、人が容易に湖畔にはたどり着けず、また、常に霧がかかっているという神秘的な湖である。我々が行ったときは霧がかかっておらず、摩周湖の全容を見渡すことができた。ちなみに霧がかかってない摩周湖を見ると、出世や結婚が遅くなる。という迷信がある。これはまた霧がかかった摩周湖を見に、北海道へ来なくてはならなくなってしまった。また、自分はここで、北海道で3回目のソフトクリームを食べた。味は「摩周ブルー」というもので、全体に薄いブルーがかかった色である。味はヨーグルトに近いという話だったがあまり分からなかった。

摩周湖を出た後は1時間ほど眠気と闘いながら、さきほどの展望台の反対側から摩周湖が見られるという裏摩周に行き、そこから数分とかからない場所にある神の子池というところに行った。この池の水は、摩周湖の水が湧き出していると言う池らしく、なぜか池の中は青色しており、神秘的だった。また、池の中の木は、腐らないらしい。わざわざ予定を変更してでもここに来たのだが、その甲斐があった。

神の子池を観光した後は、道の駅で1度休憩した後、斜里を通過して知床半島に入り、オシンコシンの滝へ向かった。ここでは滝を観光するとともに、ちょうど日の入りが近かったため、それも見ることにした。海の向こうへ沈んでいく太陽は、自分も今までそれほど見たことがなかったため、非常に綺麗だった。

そしてそこから数分ともかからないところにある今夜の宿泊場所である宿に到着し、ごはんを食べた。この御主人曰く、「知床は丸1日自由時間があれば、有意義な時間を過ごせる」とのことであった。確かに知床半島には知床五湖やカムイワッカの滝などの観光地があり、もう1日あればゆっくりできたのかもしれない。

6日目。すっかり5時には目が覚めるようになった。ひとつ風呂浴びたあと、車を近くの道の駅まで持っていき、いつものように軽く洗車したあと、宿に戻り、ごはんを食べ、午前8時、宿を出発した。

出発して20分ほどで知床峠に着き、そこでしばらく景色を堪能した。ここでは日本の領土である国後島が見え、領土問題をこの目で見る事ができた。そしてヒカリゴケを見られる洞窟に行こうと思ったものの、そこは工事中で入ることができず、しかたなくスルーすることとなり、次の目的地である開陽台へ向かった。途中のメロディロードにも寄ってみようと言うことで近くまで行ったものの、地図が正確ではなく、迷ってしまった。まあそれでもそこらへんの道を片っ端から通って調べ、なんとか見つけることができた。ここでは実際に知床旅情と言う演歌のメロディーを聴くことが出来るという事であり、実際に走ってみたが、確かにメロディーとして聞くことができた。こういう面白い道を京都や長野でも作ってほしいのだが、やはり費用や維持費が大変なのだろうか。そして開陽台に向かう直前のアップダウンの道が、ジェットコースターみたいで面白かった。機会があるならばもう一度走ってみたい。

開陽台は360度近くの展望が望めるということであったが、天気が下り坂だったためか、風が強く寒かった記憶がある。また、厳密には山が近くにあるため360度の展望ではなく、後日調べたところによると近くに多和平という、本当に360度の展望が望めるところを見つけたので、こんどこそ行ってみたい。

お昼ごはんは中標津にある、回転寿司すしロードというところでとった。ここは簡単に言えば壱百円～壱千円の寿司が回転寿司形式で流れてくる場所である。値段は張るものの、ネタは大きく、普通のそこらにある100円回転寿司とはぜんぜん違った。自分も五百円皿を食べてみたりしたが、やはり値段の方が心配で、おなかいっぱい食べられなかった。その後はミルクロードを釧路へ向かい、ひたすら走った。何も無い道を100キロ近く、前に走るトラックについていったのだが、自分のペースで走れないせいか、非常に眠かった。途中で1度休憩をはさんだあと、釧路湿原の展望台に向かった。ここでは入場料が必要だったのだが、事前のリサーチ不足のため、みんな入れずに迷惑を掛けてしまった。ただあまり入場料のほどの価値はあったかどうか、だとか。別に入れなかった負け惜しみではない。そこからは、更に100キロほど西へ向かい、帯広にある宿に到着した。途中で道の駅で休憩をしていたところ、自衛隊の車輛がきた。予備自衛官補でもある山本君はテンションが上がっていた。宿につき、ごはんを食べた後、入浴は近くの温泉銭湯に行ったのだが、値段が安い割には広くきれいで、なかなか良いところだった。

7日目。朝はいつもと同じなので省略。出発は8時5分。最初に旧国鉄広尾線の愛国駅に行き、自分はこの合宿で唯一のおみやげである愛国発幸福行きのきっぷを購入した。旧駅舎の中は名刺や落書きでいっぱいであった。そのあとは花畑牧場へ行ったのだが、まだ開店して1時間も経っていないというのにすごい行列だった。結局ここで買おうと思っていた生キャラメルは断念した。だいぶここで時間を使ってしまったが、普段は触れ合えない動物もいたりして、結構みんな楽しんでいたので何よりだった。そこからは道の駅で休憩した後、高速に乗り、富良野に向かった。

富良野へ向かう途中、道の駅によったのだが、自分はここで北海道4回目のソフトクリームを食べた。味は富良野名産の「ラベンダー」であり、確かにラベンダーの味がしたと思う。道の駅からは国道ではなく、なかやま湖経由で富良野へ向かい、夏はラベンダー畑で有名なファーム富田というところに到着した。時期柄、ラベンダーは咲いていなかったものの、サルビアやマリーゴールドが咲き誇っており、御花畑として十分きれいであった。ここではお昼ご飯の時間も兼ねていたため、自分はレストランで野菜カレーを頂いた。ちなみにジンギスカンドッグを最初頼んだのだが、私の直前で材料が切れてしまったようだった。更に食後に食べようと思っていたラベンダーカルピスゼリーも、着いた時はまだあったのだが、食後に売店に行くと、すでに売切れてしまっていた…。ちなみに駐車場ではマイクロバスを観光バス専用のところ止めたのだが、普通車と比べると大きく見えるマイクロバスが、60人近く乗れる大型観光バスと比べると小さく見えてしまい、なんだかなー。だった。

富良野で花とお昼ご飯を堪能したあとは、美瑛を通り、旭川から高速に乗って小樽に向かった。今回、いくつか高速を走っていて思ったのだが、道民の方々は一般道ではスピードを出すが、高速ではあまりスピードを出していないようだった。120kmも出せば、ゴボウ抜きとまでは言わないものの、結構抜かせたからである。やはり動物を警戒しているのだろうか。

小樽についたのは18時。ここで3時間ほど自由時間となったので、羽根君と藤田君の3人で小樽ラーメンを食べ

に行った。私は味噌ラーメンを頼んだのだが、他の2人の塩、しょうゆと比べてあたり、というか一番味噌が自分好みの味であった。夕御飯を食べた後は小樽運河周辺を観光し、小樽駅まで買い物に行ったのだが、だいぶ疲れてしまった。21時前、マイクロバスに戻り、みんなを乗せて出発した。フェリー乗り場にはすぐにつき、みんなを下ろしてレンタカーを返却し、フェリーの手続きをして、乗り込んだ。

フェリーの中では行きに入らなかったお風呂に初めて入った。フェリーにしてはなかなか良いお風呂であった。夜は騒ぐ元気もなく、すぐに寝てしまった。そしてまた騒音で周囲に迷惑を掛けてしまった。

合宿8日目の最終日。ゆっくり朝は起きて、ひたすらボーっとしていた。何をしていたかあまり覚えていない。ただ、夕飯は、フェリーのカフェテリアレストランに食べに行った。カツ煮定食にして食べたのだが、値段もそこそこで味もおいしかった。ただ、味噌汁が100円なのに豚汁が250円なのは差がありすぎるのではないかと思った。

フェリーは定刻通り舞鶴港につき、形式上、解散式を行い、解散した。そこからはタクシーに分乗して東舞鶴駅に行き、電車で二条駅まで、更にそこから方面ごとにタクシーに分乗して帰った。家に帰り着いたのは日付をまたいで0時20分頃であった。

こうして北海道バス旅行は、大きな混乱もなく、事故もなく、終わることができた。

今回の合宿を終えて。

今回の合宿の目的はそのほとんどが達成できたと思う。ただ、その一方でやはり反省点もあった。私としては1番の反省点が、各個人に今どこを走っているのか把握できていなかったことであると思う。この先、こうした観光を目的として長距離車輛移動がある合宿の場合は、山行などと同じで、各個人が今どこを走っているのかが把握できるような対策を講じるべきである。また、今回はみんな車内で退屈してしまったようで、寝てしまう人がほとんどであったが、車内でのレクや、ガイドなど皆が退屈にならないようなことも考えておくべきであった。

その他の反省点については、みんなのレポートを参照。

最後にCLからみんな、そして後輩へ

ドライバーとして、今回のバス旅行でナビゲーターを務めてくれた藤田君、羽根君の両名に感謝をさせていただきたい。ナビがあるとはいえ、バグりやすいナビだったようでたびたびおかしい道を指し示していたため、道順等はほとんど彼らの指示に頼り、そして特に大きく迷うことなく走りきることができました。また、1日に1度くらいは眠たくなることがありましたが、結果として無事故で帰ってくることができたのは、彼らナビの努力の賜物です。

また、CLとして、SLを務めてくれた羽根君、班長役を務めてくれた藤田君、山下君、折田さん、天野君、そして参加者のみんな。何事も無く終わることができたのは、羽目を外すことなく、CLを困らせるようなこともせずよく言うことを聞いてくれ、集合時間に大幅に遅れるようなこともせず、きちんと時間通りに動いてくれたみんなのお陰です。本当にありがとう。ひとつ残念なのは、このような合宿を開くにはマイクロバスが運転できる免許が必要になってくるため、この先はなかなか計画できないことでしょうか。ただ、こうやって多くの人数が参加する合宿を行う手段は、ほかにいくらでもあると思います。その時は、この報告書を参考に、素晴らしい合宿を開いてください。学生生活で、私に大きな思い出を残してくれた参加者みんなに、ありがとう。